資 料 1

第２２回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード
議事要旨

１　日　時：平成２９年３月１４日（火）１４：００～１６：００

２　場　所：新宿住友ビル４７階　スカイルームＮｏ．４
　　新宿区西新宿２−６−１

３　出席者：（委員）
　　◎ 亀井　昭宏（早稲田大学名誉教授）
　　〇 黒沢　文貴（東京女子大学現代教養学部教授）
　　兼川　真紀（弁護士）
　　斎藤　靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）
　　榊　　誠（公益財団法人あしたの日本を創る協会理事長）
　　髙山　正也（独立行政法人国立公文書館フェロー）
　　名越　健郎（拓殖大学海外事情研究所教授）
　　［敬称略、◎は座長、〇は座長代理］
　（総務省）
　　佐伯　修司　官房審議官
　　稲垣　好展　管理室長
　　細田　恵三　企画官

４　議事次第
（１）資料館の視察（企画展「手紙が語る戦争」）
（２）「平成２８年度平和祈念展示資料館運営業務実施（見込み）報告書」及び「平成２６年４月から３年間の業務実績」の説明
（３）「平成２９年度平和祈念展示資料館の運営業務について（案）」の説明

５　議事要旨
（１）資料館の視察
　　資料館を視察し、企画展及び運営状況等について説明が行われた。
（２）「平成２８年度平和祈念展示資料館運営業務実施（見込み）報告書」及び「平成２６年４月から３年間の業務実績」の説明
　　委託事業者から説明が行われた。
（３）「平成２９年度平和祈念展示資料館の運営業務について（案）」の説明
　　資料２に基づき、事務局から説明後、意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

○　完成した総合目録について、今後の活用・利用の方策は有識者の意見を参考にしながら進めていっていただきたい。

○　何をどのように伝えていくのか、伝える内容を充実させるためには、学芸員を中心に新しい学術的動向をはじめ、いろいろな情報を収集していくことが重要である。

○　英訳を行う場合、学術的な表記が一般の外国人には伝わらない場合があるため、表記の仕方には気をつけていただきたい。

○　英語による解説を実施する場合、文字情報が溢れてしまわないよう、例えばパネルの英語表記はポイント部分に絞り、他の部分の表示方法は別の形で実施することを模索していただきたい。

○　資料をきちんと後世に伝え、記憶を継承することが大事であるので、資料館の運営はこのまま続けてほしい。この資料館の展示は、首都圏だけでなく全国の小中学生に見ていただきたい。

○　資料館には子どもから大人まで幅広いニーズがあるため、すべてのニーズに対応するのは難しい。自分たちの資料館が伝えるべきことは何かという点をしっかりと捉えていくことが大事である。

○　デジタル・アーカイブを構築し、これを活用することによりインターネットを通して中学生、高校生、大学生への資料館の認知拡大を図っていくこともできるだろう。

○　企画展終了後は、展示の記録をしっかり残すとともに、さまざまなプロモーションに利用するとよいのではないか。

○　語り部の中には９０歳を超える人もおり、高齢になっている。オーラルヒストリーとしての資料をしっかり作っていただきたい。

○　最近はアメリカと日本が戦争をしていたことを知らない大学生がいる。小中学生でも分かる展示になるよう工夫したほうがよい。

○　昭和館やしょうけい館など類縁の資料館と情報交換を行うことにより、一層の連携を図っていただきたい。